

科目・コース（ユニット）名： 倫理学
英語名称：Ethics

【担当責任者】 宮田 勇生

【連絡先】 yuki.miyata.q5@dc.tohoku.ac.jp

【開講年次】 1年, 【学期】 前期, 【必修／選択】 選択必修, 【授業形態】 講義

【概要】

哲学・倫理学は、日常生活では疑いなく受け流しているような、当たり前のことを考え直す学問です。しかし、哲学者や倫理学者が問題にする「当たり前」とは、単なる常識のようなものではありません。むしろ、それなしでは円滑な日常生活が送れなくなるような前提を疑うのが哲学・倫理学という営みです。この授業では、人格や規則、時間といった生の根底的な前提を哲学的に吟味することで、私たち自身の生を改めて捉え直してみたいと思います。

【学習目標】

《一般目標》

たとえば、「昨日の自分と今日の自分が同じ自分であること」「他者には心があること」「時間が止まらずに流れること」といったことは、それを疑うと日常生活に支障をきたすような当たりの事実でしょう。この授業では、「人格」「規則」「時間」という三つのトピックに絞って、そのような私たちの生の根本的な前提を疑ってみます。このような議論を経て、これまでは気づくことのできなかった生の豊かさを発見することが目標です。

《行動目標》

1 近代哲学の出発点

- (1) 近代哲学の創始者であるデカルトの思想を理解し、説明できる
- (2) デカルトが以降の哲学に対して提起した論点を整理できる

2 人格の同一性

- (1) 人格が同一であるための様々な条件を理解し、その妥当性を評価できる
- (2) 近代から現代へと至る哲学史的な人格論の流れを掴める

3 規則の確実性

- (1) 道徳や因果性など、様々な規則の確実性を批判的に吟味できる
- (2) 哲学史的な規則に対する懐疑論に共通する構造を概観できる

4 時間の連続性

- (1) 時間の認識についての様々な哲学的な理論を理解し、その妥当性を評価できる
- (2) 時間の連続性が私たちの生をどのように規定しているのかを理解できる

【教科書】

特に教科書は指定しないが、授業の際に適宜資料を配付するとともに、参考文献の紹介

に努める

【参考書】

『ワードマップ現代形而上学——分析哲学が問う、人・因果・存在の謎』、新曜社、2014年

【成績評価方法】

出席状況（40%：特に必須となる出席回数は設けない）に加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験（60%）を学期末に課す。

【学習上の注意事項】

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2026/4/16	木	3	（講）日常的な態度と哲学的な態度	宮田勇生	
2	2026/4/23	木	3	（講）方法的懐疑と「我あり」	宮田勇生	
3	2026/4/30	木	3	（講）人格の同一性とその条件	宮田勇生	
4	2026/5/7	木	3	（講）ロックの人格論	宮田勇生	
5	2026/5/14	木	3	（講）ロックに対する反論	宮田勇生	
6	2026/5/21	木	3	（講）現代の人格論	宮田勇生	
7	2026/5/28	木	3	（講）様々な規則と懐疑論	宮田勇生	
8	2026/6/4	木	3	（講）ヒュームの懐疑論	宮田勇生	
9	2026/6/11	木	3	（講）ヴィトゲンシュタインの懐疑論	宮田勇生	
10	2026/6/25	木	2	（講）言語と心の懐疑論	宮田勇生	
11	2026/6/25	木	3	（講）過去と未来の連続性	宮田勇生	
12	2026/7/2	木	2	（講）デカルトとカントの時間論	宮田勇生	
13	2026/7/2	木	3	（講）フッサールの時間論	宮田勇生	
14	2026/7/9	木	2	（講）デリダとメイヤスーの時間論	宮田勇生	
15	2026/7/9	木	3	（講）哲学的な態度とは何か	宮田勇生	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
宮田勇生	非常勤講師	東北大学大学院文学研究科	